

# 田代よいとこ - その13 - 名刹・勝楽寺と半僧坊

勝楽寺の正式名称は、満珠山勝楽寺。本尊は釈迦牟尼仏。寺の後ろの山を法華峰（経ヶ岳）といい、この頂上には、弘法大師空海が写経を納めたと言われる「経石」があります。はじめは真言宗でしたが、天文年間(1532~1555)に曹洞宗に転じました。

開山※1は能菴宗為、開基※2は内藤三郎兵衛秀行（第2代田代城主）。田代小学校がその跡地となっている孤嶽山長福寺（明治11年無住となり、のち廃寺）は勝楽寺の末寺でした。歴代住職には傑出した僧が多く、中でも18世の大忍国仙は、良寛和尚の師であったということです。

主要建造物には、本堂、山門、中門、鐘楼、鎮守堂、庫裡などがあります。これらは寛政5年(1793)に焼け、再建されたもので、山門は嘉永4年(1851)、矢内右兵衛高光の手で完成しました。町指定重要文化財です。

勝楽寺は、「半僧坊」（はんそうぼう）というのが通り名ですが、それは寺内に半僧坊大権現※3が勧請※4（かんじょう）されていることによります。半僧坊の例祭は4月17日。その1年間に結婚した女性が挙式当日の晴れ姿で参詣する習慣があったことから、「花嫁まつり」「美女まつり」の異名で呼ばれています。露天も出て大変賑やかなのは、ご承知の通り。地元住民はもちろん周辺の町村からも大勢の参詣人が詰めかけます。この祭日の頃がショウガを植える目安となることもあって、参道には種ショウガを売るお店も出ます。例祭は、今年で126回目となります。



これが半僧坊をまつるお堂です



山門には仁王様もいます →



← 堂々たる山門 ↑



- 【参考文献】 『愛川町郷土誌』（愛川町 昭和57年）  
『新編相模国風土記稿第3巻』（雄山閣1980年）

## 【用語解説】

- ※1開山：その寺院を開いた初代住職  
※2開基：財政的支援を行う世俗の人  
※3半僧坊：半僧坊大権現ともいう。半分僧侶半分俗人の白髪の老人で、もともと臨濟宗方廣寺（静岡県浜松市）の開山・無文元選禅師に使っていた人物だったが、禅師の死後、姿を消した。彼は非常に強い神通力を持っていたという話もあり、いつしか山を守る半僧坊という天狗としてまつられるようになった。勝楽寺では、この方廣寺より半僧坊大権現を勧請し、寺の守護とした。なお、鎌倉の建長寺（臨濟宗）でも、明治23年に方廣寺から半僧坊大権現を勧請した。  
※4勧請：神仏の霊を迎えてまつること。

【取材協力】 勝楽寺住職・鴨下俊道様

今年も「田代よいとこ」の連載を続けます。今後の予定として、「中津神社」「田代地区と戦争」「館山」「田代小の先輩たち」「三増合戦」等を予定しています。なにか田代地区のよさをアピールするようなテーマがありましたら、教頭までお知らせください。よろしくお願いたします。